

であったが、最近では飼養頭数を所得目標から規模を拡大して決まり、飼料作物栽培面積の方はほとんど固定化された小面積のなかで必要最小限が栽培されている。この結果、過剰投資とふん尿多施用の中で、硝酸態窒素の多いミネラルアンバランスな飼料作物が割高に生産されるようになり、環境問題にまで発展しているのが現状である。

最近ではフリーストール方式など新技術の導入による省力多頭飼育も始まっており、今一度、経営内における飼料作物栽培の位置づけを、ふん尿処理の問題とも十分関連させて、明確にその方針を再構築する必要がある。すなわち、

(1) 自給度をどのくらいに設定するのか。例え

ば、粗飼料を全部か、良質粗飼料だけか、嵩^{かさ}を主として確保するのか、また、高エネルギー飼料作物により濃厚飼料の節約までを考えるのか。

(2) 適正土地面積が確保でき、省力機械体系が有効に活用でき、栽培技術も確立していて、さらに、コスト的にも合うかどうか。

(3) 飼料作物栽培が過重労働とならず、ゆとりが持てて、乳牛管理がおろそかにならないか。

(4) 適正なふん尿処理体系の確立により、飼料作物には適正有機質のみの施用を行い、余分の堆きゅう肥は地域内との連携により、地域リサイクルの循環を作り上げることができるかどうか、など十分な検討が必要であろう。

寒冷地における景観作物

雪印種苗(株) 中央研究農場

立 花 正



工場緑花

1 はじめに

村おこし、町おこしに対する関心が高まる中で、その一環としてスキー場などのレジャー施設と宿泊施設を兼ね備えた大型リゾート基地の開発が各地で進められています。しかし、近年の傾向として、十勝管内鹿追町の『大草原の小さな家』に代表されるような、農家自身が民宿を開き、都会の人たちに利用してもらおうファーム・イン（農家民宿）が脚光を浴びています。このファーム・インは、ただ単に一流のホテルに宿泊し、ひとときのスポーツやレジャーを楽しむばかりでなく、自然な姿の農家との交流をしたいというニーズから生まれたものと考えます。そして、農家自身も自分たちの周囲の“景観”にもっと目を向けるという雰囲気が大きく膨らんだものと思います。事実、利用する側としても、第一にのんびりくつろげる、飾らない雰囲気、次に動物とふれあったり、景色

を楽しんだりする自然環境に期待しています。

このように『景観追求』ということが、今後大きく展開されると考えられる中で、いかにして、その『景観』を作り出していか、いかに、自然に『緑花』していくかということについて、以下にご紹介します。

2 ワイルドフラワーによる緑花

景観を彩る作物として代表的なものに、近年利用が増加しているワイルドフラワーがあります。

ワイルドフラワーによる緑花とは、文字どおり野生の草花のみによって緑花しようというわけではありません。主として、これまで園芸用の草花として扱われてきたものの中から、種子によって容易に繁殖することができ、かつ、脊薄地などの悪条件の中でも、花を咲かせることのできる種類の草花による緑花です。

特に最近では、それらを単一で播種するのではな



写真1 スノーミックスフラワー

く、数種類を混播(ミックス)する、いわゆる『ミックスフラワー』を利用する場面が多くなっています。

この『ミックスフラワー』の当初の目的としては、遠景からみた時の総合的な緑花であり、また、播種した場合の大きな利点としては、単一草種では開花期が一定期間に限られますが、この技術では開花期が異なり、花色にも富んでいる多種類の草種が混播されていますので、年間を通じていろいろな種類の、かつ、いろいろな色の花を楽しめます。また、多種類の草種が混播されているため、播種された土地や気候に適応できない種類の草花があったとしても、他の草花によって補うことができます。

しかし、近年では利用される場面が家庭、公園などの花壇、農家の環境美化、工場の環境美化、道路の中央分離帯、のり面、河川敷の緑花等々、見る視点が遠景、中景、近景と多岐にわたります。

基本的には、播種した場合の景観(遠景、中景、



写真2 道路中央分離帯の緑花



写真3 単品種でも美しいブルーエンジェルの草姿

近景)を考慮し、管理面からワイルドタイプ(遠景が中心で除草などの管理は行わず、自然状態で維持)とガーデンタイプ(中景、近景が中心で除草、肥培管理を行う)の2つのタイプに分け、それぞれにあった計画、造成、管理を行います。実際の管理面では、ワイルドタイプは自然状態で管

表1 スノーミックスフラワーの緑花施工手順

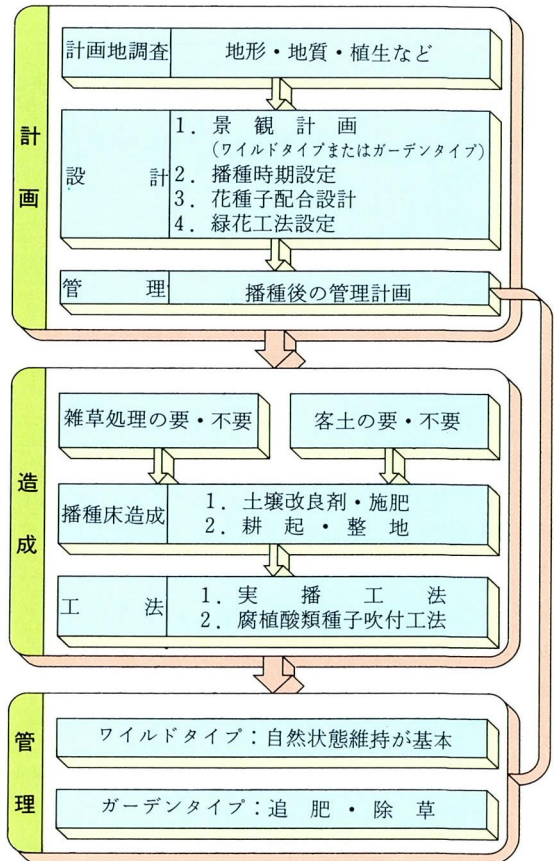


表2 スノーミックスフラワーの種類と特性

ミックス品名	草種区分	花色	草丈 cm	播種期 月	開花期 月	播種量(g/m ²) (土質・気象条件等による)	粒数(粒/g)
スノーレインボー	一年草と宿根草 16種混合	各色混合	30~80	4~8	6~10	1~1.5	約1,700
レインボーカーペット	一年草と宿根草(矮性) 17種混合	各色混合	15~40	4~8	6~10	2~3	約 700
コスモス スーパーグラデーション	早・中・晩生の混合	白・桃・赤	100~140	4~6	7~10	(mℓ/m ²) 3~5	(粒/mℓ) 約 60

※開花期は播種期により異なります。

理することが基本となりますが、生育の段階で雑草などの繁茂が旺盛で、草花の生育を阻害または景観を著しく損なう場合には状況によって除草を行います。一方、ガーデンタイプは美観の面から適宜の除草と開花後の花殻の除去、また、2年目以降の順調な開花、生育をさせるために、早春の追肥も必要になってきます。追肥には緩効性肥料の『ハイコントロール』をお勧めします(表1参照)。

ミックスフラワーのタイプとしては、表2に示すように、『スノーレインボー』『レインボーカーペット』『コスモススーパーグラデーション』があります。また、ガーデンタイプにおいて特に管理が十分でき、かつ、毎年更新が可能な場所では、1年生の草花のみのミックスが適しています。

3 景観作物としての緑肥作物 『キカラシ』『アンジェリア』

従来の緑肥作物はえん麦やイタリアンライグラスなどに代表されるように、主に茎葉のすき込みが主体でしたが、最近では、弊社で開発した『キカラシ』『アンジェリア』のように生育期間中にきれいな花をつける特性をもつため、本来の緑肥作物としての土壌への有機物の供給をするとともに、景観作物として花も鑑賞できる緑肥作物があります。このような花も鑑賞できる緑肥作物を、後作緑肥、休閑地での雑草の侵入防御、地力の増進に役立てるとともに、景観作物という面からの特性を生かしていただき、土地を休ませるとともに、道行く人々の心と目も休ませていただきたいと思います。

(1) 『キカラシ』の特性

緑肥作物としての『キカラシ』は発芽、初期生育が良好で、かつ、従来のえん麦類に比較してその後の生育も旺盛で、取量的にもえん麦に比べ短

期間で多収となります。

景観作物としての特徴は花色は鮮やかな黄色であり、5月から8月上旬までの期間での播種では、播種後約50~60日で開花します。特に、秋に咲く『キカラシ』の黄色の

花は周囲の紅葉の中でも栄えるのではないでしょう(表紙写真)。

(2) 『アンジェリア』の特性

『アンジェリア』は『キカラシ』と同様にえん麦に比べ初期生育が旺盛で、土壌への被覆が早いので、表土の流亡や雑草の発生を抑制することができます。

景観作物としての特徴は前述の『キカラシ』と同様に播種後約60日という短期間で紫色の花を開花させ、土壌保全と緑花の2役をこなします。



写真4 紫色の花が美しいアンジェリア

4 おわりに

今回は、実際に美しい『景観』を作り出す作物として、ワイルドフラワーと花も楽しめる緑肥作物2種類を紹介しました。

これを契機に日ごろ漫然と見ている自分たちの周りの環境への関心がさらに高まり、1人ひとりの手で緑と花で彩られた、美しく、かつ、ゆとりの感じられる空間がつくられ、広がることを望みます。

また、弊社としても、いろいろな角度から、ゆとりある空間の作出をお手伝いしていきたいと考えています。